冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5136	明治36年	冬の部	日山に入ること早し釣干菜	干菜	人事
5137	明治36年	冬の部	一爻變して北の窓を塞く	北窓塞	人事
5138	明治36年	冬の部	かへり見る峠の人や日短し	短日	時候
5139	明治36年	冬の部	水鳥や琵琶は寿永の物語	水鳥	動物
5140	明治36年	冬の部	鷹狩や涙を拂ふ蘇武が跡	鷹狩	人事
5141	明治36年	冬の部	寂栞柴漬に鳴く川千鳥	千鳥	動物
5142	明治36年	冬の部	執筆の昔語や桃青忌	芭蕉忌	人事
5143	明治36年	冬の部	冬の雨趣や竹二三竿	冬の雨	天文
5144	明治36年	冬の部	紙衣着て夢や小判を擲ちぬ	紙衣	人事
5145	明治36年	冬の部	年々の金屏の松や冬に入る	冬	時候
5146	明治36年	冬の部	小春晴枯柴採りに裏の山	小春	時候
5147	明治36年	冬の部	小春日の空ものすごき青み哉	小春	時候
5148	明治36年	冬の部	小春日のはや午すぎとなりにけり	小春	時候
5149	明治36年	冬の部	小春日の落葉や宵の雨の痕	小春	時候
5150	明治36年	冬の部	草の骨に馬遊ばする小春かな	小春	時候
5151	明治36年	冬の部	冬木立黄鶴楼の跡もなし	冬木	植物
5152	明治36年	冬の部	冬木立遊山ともなく法師原	冬木	植物
5153	明治36年	冬の部	冬木立把栗寒花の詩を獲たり	冬木	植物
5154	明治36年	冬の部	力石横はりけり冬木立	冬木	植物
5155	明治36年	冬の部	鎌倉の大きな寺や冬木立	冬木	植物
5156	明治36年	冬の部	餅搗て居れば其角が醉て來る	餅搗	人事
5157	明治36年	冬の部	餅搗いて主ぶりけりお足輕	餅搗	人事
5158	明治36年	冬の部	餅筵子等の春衣も出来てあり	餅筵	人事
5159	明治36年	冬の部	餅搗を終日寺に遊びけり	餅搗	人事
5160	明治36年	冬の部	餅搗の音も聞ゆる岡見哉	餅搗	人事
5161	明治36年	冬の部	寒声に窮陰の氣を発しけり	寒声	人事
5162	明治36年	冬の部	蝋燭のあたりを拂ふ追儺かな	追儺	人事
5163	明治36年	冬の部	書出しや竜畫きゐる家あるじ	掛乞	人事
5164	明治36年	冬の部	凩の温泉の客稀に来りけり	凩	天文
5165	明治36年	冬の部	孝行な嫁を貰へりお取越	御取越	人事
5166	明治36年	冬の部	達磨忌も何も知らずと答へけり	達磨忌	人事
5167	明治36年	冬の部	みつじ田のくぼみにたまる霰哉	霰	天文
5168	明治36年	冬の部	藥喰漢の武帝を嘲りぬ	藥喰	人事
5169	明治36年	冬の部	燒芋のよろしき芋をたうべけり	燒芋	人事
5170	明治36年	冬の部	クリスマス小袋の銀貨鳴らしけり	クリスマス	人事
5171	明治36年	冬の部	水涸に吹散る雪もなかりけり	水涸	天文
5172	明治36年	冬の部	炭俵三冬の菜屑大根屑	炭俵	人事
5173	明治36年	冬の部	衣配母います時の如くせり	衣配	人事
5174	明治36年	冬の部	娘して送る年貢の炭五俵	炭	人事
5175	明治36年	冬の部	神帰り赦免の沙汰もなかりけり	神帰り	人事
5177	明治36年	冬の部	あら笑止俵に痛き足の骨	雑	雑
5179	明治36年	冬の部	芭蕉七尺影はふまじと思ひけり	芭蕉忌	人事
5181	明治36年	冬の部	浅ましき榾火の松のいぶりかな	榾	人事
5183	明治36年	冬の部	寒の雨巖に声もなかりけり	寒の雨	天文
5185	明治36年	冬の部	凩に吹散る松の鱗かな	凩	天文
5187	明治36年	冬の部	巖が根のゆるがじとする海鼠かな	海鼠	動物
5189	明治36年	冬の部	玄黄の其血吹雪や巖に劍	吹雪	天文
5190	明治36年	冬の部	榾の火やあれこそ厨川二郎	榾	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5191	明治36年	冬の部	事納師は木食のすこやかに	事納	人事
5192	明治36年	冬の部	方丈に俗の客あり冬椿	冬椿	植物
5193	明治36年	冬の部	雪沓に剛の座の人まかでけり	雪沓	人事
5194	明治36年	冬の部	書出も貧居の吟の一ツかな	掛乞	人事
5195	明治36年	冬の部	日光や冬田の中の水たまり	冬田	天文
5196	明治36年	冬の部	戯の一詩を獲たり厄落	厄落	人事
5197	明治36年	冬の部	寒稽古又にかゝる霜もなし	寒稽古	人事
5198	明治36年	冬の部	三升の麦種悲し小作人	麦蒔	人事
5199	明治36年	冬の部	麦蒔のしるしの料理赤蕪	麦蒔	人事
5200	明治36年	冬の部	いくさあれば晴れて麦蒔く日も淋し	麦蒔	人事
5201	明治36年	冬の部	麦蒔の摩耶に入る日を惜みけり	麦蒔	人事
5202	明治36年	冬の部	麦蒔に亥の子の餅を振まへり	麦蒔	人事
5203	明治36年	冬の部	綿ほこり綿入つくる老が妻	綿入	人事
5204	明治36年	冬の部	綿入てぬくまれば事もなかりけり	綿入	人事
5205	明治36年	冬の部	綿入や古びにたれど垢つかず	綿入	人事
5206	明治36年	冬の部	綿入や貧しかれども人の親	綿入	人事
5207	明治36年	冬の部	故人句あり綿入れて即ち贈りけり	綿入	人事
5208	明治36年	冬の部	氷裂けて水鴨緑や陽の光	氷	天文
5209	明治36年	冬の部	岩のくぼ目洗ひ水も氷りけり	凍る	天文
5210	明治36年	冬の部	澗水の涸尽したる氷かな	氷	天文
5211	明治36年	冬の部	堅氷に斧打って水探りけり	氷	天文
5213	明治36年	冬の部	厳氷を砕くが如き響かな	氷	天文
5214	明治36年	冬の部	雪つむや十抱への木の下り枝	雪	天文
5215	明治36年	冬の部	年の市音樂隊の通哉	年の市	人事
5216	明治36年	冬の部	神泉苑氷の上の遊かな	氷	天文
5217	明治36年	冬の部	葱洗ふ門川の氷固からず	氷	天文
5218	明治36年	冬の部	除夜の灯や古人のふみに零つ涕	除夜	時候
5219	明治36年	冬の部	眠る山菜作る畑も見たりけり	山眠る	天文
5523	明治37年	冬の部	山寺に冬至の蹊つくりけり	冬至	時候
5524	明治37年	冬の部	佛恩や菜屑を捨てず御取越	御取越	人事
5525	明治37年	冬の部	冬の雨堂塔とざす金閣寺	冬の雨	天文
5526	明治37年	冬の部	神鳴て鰰さむき山家哉	鰰	動物
5527	明治37年	冬の部	帰去來の句を書捨てつ古暦	古暦	人事
5528	明治37年	冬の部	登る日に眼を射られけり暖め鳥	暖め鳥	動物
5529	明治37年	冬の部	こもり居や地図を四壁の冬座敷	冬座敷	人事
5530	明治37年	冬の部	河豚喰ふて一陽発す臓腑かな	河豚	動物
5531	明治37年	冬の部	さゝ鳴や鴻臚の人の愁思吟	笹鳴	動物
5532	明治37年	冬の部	さゝ鳴や故園の情話日を竟る	笹鳴	動物
5533	明治37年	冬の部	さゝ鳴や俎豆陳ぬるあそび事	笹鳴	動物
5534	明治37年	冬の部	さゝ鳴や自ら笑ふ閑妄想	笹鳴	動物
5535	明治37年	冬の部	さゝ鳴や枯木の中を女の童	笹鳴	動物
5536	明治37年	冬の部	境内の雪を汚して札納	札納	人事
5537	明治37年	冬の部	綿帽子糟糠の妻と呼做せり	綿帽子	人事
5538	明治37年	冬の部	此頃の日かげ慕し枯葎	枯葎	植物
5539	明治37年	冬の部	鮟鱇を市にさげすみ通りけり	鮟鱇	動物
5540	明治37年	冬の部	鳥叫や天紅ゐの雲起る	冬茜	天文
5541	明治37年	冬の部	冬夜吟千里の友に送りけり	冬夜	時候
5542	明治37年	冬の部	茶の友の参り合せし師走か南	師走	時候

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5543	明治37年	冬の部	水に住む鱗むせぶ吹雪哉	吹雪	天文
5544	明治37年	冬の部	厄落し済みたる市の月夜か南	厄落	人事
5545	明治37年	冬の部	犠牲は毛の荒ものの寒さ哉	寒さ	時候
5546	明治37年	冬の部	良き馬に鍼一ツすや寒の入	寒の入	時候
5547	明治37年	冬の部	温石のぬくみ覚えつ寒の入	寒の入	時候
5548	明治37年	冬の部	虬斬て淵紅ゐや寒の水	寒の水	天文
5549	明治37年	冬の部	勤行に焔吐くらん寒の中	寒	時候
5550	明治37年	冬の部	寒一日先師の靈を祀りけり	寒	時候
5551	明治37年	冬の部	菊枯れて鳥の蹊となりにけり	枯菊	植物
5552	明治37年	冬の部	枯菊を焚いて餉をまゐらせぬ	枯菊	植物
5553	明治37年	冬の部	主の翁炉にほとりして菊をたく	圍爐裏	人事
5554	明治37年	冬の部	句の意落葉に菊ぞ懐しき	落葉	植物
5555	明治37年	冬の部	衰や詩巻に垂るゝ髯寒し	寒さ	時候
5556	明治37年	冬の部	水烟や山川の石にましら啼く	冬の靄	天文
5557	明治37年	冬の部	緋毛布にがらす戸をもる晷かな	毛布	人事
5558	明治37年	冬の部	袴着の客大学を講じけり	袴着	人事
5559	明治37年	冬の部	貝焼の河豚を照す孤燈かな	河豚	動物
5560	明治37年	冬の部	冬の日を愛する心起りけり	冬日	天文
5561	明治37年	冬の部	君が爲河豚な喰ひそと戒しめつ	河豚	動物
5562	明治37年	冬の部	射損じの枯木に折れし猟矢哉	狩	人事
5563	明治37年	冬の部	髪置や男女の席の正うす	髪置	人事
5564	明治37年	冬の部	臘八の曉天にうつ納豆か南	臘八	人事
5565	明治37年	冬の部	皮ごろも梅清香を発しけり	裘	人事
5566	明治37年	冬の部	埋火の消えゆく人の別かな	埋火	人事
5567	明治37年	冬の部	姑蘇遠し夜行く人に鐘冴ゆる	冴る	時候
5568	明治37年	冬の部	寒念佛功德の水も涸にけり	寒念佛	人事
5569	明治37年	冬の部	俳諧は聖道門のそばゆか南	蕎麥湯	人事
5570	明治37年	冬の部	貴妃に醉うて帝は知らず鬼やらひ	追儺	人事
5571	明治37年	冬の部	煮凍の猶腥き悪みけり	煮凝	人事
5572	明治37年	冬の部	大川の氷を渉る首途かな	氷	天文
5573	明治37年	冬の部	禅寺に冬の水わく暖き	冬の水	天文
5574	明治37年	冬の部	山林に冬の水凝る烟かな	冬の水	天文
5575	明治37年	冬の部	此山に黄金花さき冬の水	冬の水	天文
5576	明治37年	冬の部	さゝ鳴や廟をめぐる冬の水	冬の水	天文
5577	明治37年	冬の部	狼のねぶりあまりや冬の水	冬の水	天文
5578	明治37年	冬の部	焼跡をすぎて家あり冬椿	冬椿	植物
5579	明治37年	冬の部	すさまじき師走の火事を見たりけり	師走	時候
5580	明治37年	冬の部	野の中の一軒焼くる吹雪か南	吹雪	天文
5581	明治37年	冬の部	火事埃施行の粥の白きか南	粥施行	人事
5582	明治37年	冬の部	枯芭蕉火事をのがれし庭の中	枯芭蕉	植物
5583	明治37年	冬の部	かき炙るわざ巧みなり浪花人	蛎	動物
5584	明治37年	冬の部	かき喰うて俳優を見る浪花哉	蛎	動物
5585	明治37年	冬の部	かき舟や舷にふる雪二寸	蛎	動物
5586	明治37年	冬の部	日蓮はかきくふ頃を去にけり	蛎	動物
5587	明治37年	冬の部	かき殻にまじる千鳥の糞白し	蛎	動物
5588	明治37年	冬の部	冬さうび花開きたる淋しさよ	冬薔薇	植物
5589	明治37年	冬の部	紅皿に落ちて死にけり冬の蝿	冬の蝿	動物
5590	明治37年	冬の部	水鳥の何に驚く羽音哉	水鳥	動物

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
5591	明治37年	冬の部	乾鮭に一派の宗を開きけり	乾鮭	人事
5592	明治37年	冬の部	湯婆して紅顔の人を夢みけり	湯たんぽ	人事
5593	明治37年	冬の部	依稀として孤松を存ず菊の花	菊	植物
5908	明治38年	冬の部	狼に墓の樒の乱されし	狼	動物
5909	明治38年	冬の部	狼の痩せて劔に似たる哉	狼	動物
5910	明治38年	冬の部	巌穴に狼人を護りけり	狼	動物
5911	明治38年	冬の部	狼の氣を吐く見たり寒の雨	狼	動物
5912	明治38年	冬の部	狼に我が糧寒き山路哉	狼	動物
5913	明治38年	冬の部	鯛味噌の君や浪花に成長す	鯛味噌	人事
5914	明治38年	冬の部	落葉焚く煙かゝりぬ熊祭	熊祭	人事
5915	明治38年	冬の部	むかし人に別れし岡や桃落葉	落葉	植物
5916	明治38年	冬の部	喬木の沼を繞れる落葉哉	落葉	植物
5917	明治38年	冬の部	人知れず香焚きこめてざこね哉	雑魚寝	人事
5918	明治38年	冬の部	からうたを謠ふくすしや夷講	夷講	人事
5919	明治38年	冬の部	此も一時頭巾に花をかざしけり	頭巾	人事
5920	明治38年	冬の部	鑄物師の祭の頃や花八ツ手	八ツ手の花	植物
5921	明治38年	冬の部	ひたぶるに古を好み紙衣哉	紙衣	人事
5922	明治38年	冬の部	佩玉の鳴る凩や神の旅	神の旅	人事
5923	明治38年	冬の部	細矛千足のさまや神の旅	神の旅	人事
5924	明治38年	冬の部	水仙と孰れか寒き詩の心	水仙	植物
5925	明治38年	冬の部	終焉は巨燵離るゝが如きかな	炬燵	人事
5926	明治38年	冬の部	巨燵して菴の形勝依然たり	炬燵	人事
5927	明治38年	冬の部	秋色が家の巨燵に辜負しけり	炬燵	人事
5928	明治38年	冬の部	置巨燵江戸派の分野酒の跡	炬燵	人事
5929	明治38年	冬の部	芭蕉庵古びたれども巨燵哉	炬燵	人事
5930	明治38年	冬の部	冬の海蕭條として麦まきぬ	冬の海	天文
5931	明治38年	冬の部	冬の海眺めつきて寺に遊びけり	冬の海	天文
5932	明治38年	冬の部	海士が戸に路からびけり冬の海	冬の海	天文
5933	明治38年	冬の部	古松の韵キや冬の海に落つ	冬の海	天文
5934	明治38年	冬の部	冬の海辺暖かなれど枯芒	枯芒	植物
5935	明治38年	冬の部	年貢人難波の都しぬびけり	年貢	人事
5937	明治38年	冬の部	裘蒙茸として人と異り	裘	人事
6312	明治39年	冬の部	口切の文や橙黄ばむなど	口切	人事
6313	明治39年	冬の部	冬川や北に渡れば草もなし	冬川	天文
6314	明治39年	冬の部	小石白き坡に出でぬ落葉掻	落葉	植物
6315	明治39年	冬の部	山の物炭百俵や夷講	夷講	人事
6316	明治39年	冬の部	北の窓塞ぎぬ獣通ふらし	北窓塞	人事
6317	明治39年	冬の部	枯芒北見ゆる窓未だあり	枯芒	植物
6318	明治39年	冬の部	川涸や岸高うして家一つ	川涸	天文
6319	明治39年	冬の部	北風を遮る山もなかりけり	北風	天文
6320	明治39年	冬の部	庭前に更に花なし枯芭蕉	枯芭蕉	植物
6321	明治39年	冬の部	鬼潜む昼や日あかき冬木立	冬木	植物
6322	明治39年	冬の部	菊枯れて獨往くべき逕かな	枯菊	植物
6323	明治39年	冬の部	うつくまる背に斜日や落葉掻	落葉	植物
6324	明治39年	冬の部	窪路の石に錦や散紅葉	散紅葉	植物
6325	明治39年	冬の部	搗残す一斗の粟や菊枯るゝ	枯菊	植物
6326	明治39年	冬の部	凩に昼行く鬼を見たりけり	凩	天文
6327	明治39年	冬の部	凩に粟搗きこぼす戸口哉	凩	天文

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6328	明治39年	冬の部	枯菊に風あり朋を送り出づ	枯菊	植物
6329	明治39年	冬の部	枯菊を刈る遑あり小百姓	枯菊	植物
6330	明治39年	冬の部	枯菊を惜まぬ心高き哉	枯菊	植物
6331	明治39年	冬の部	日々に枯行く菊を守りけり	枯菊	植物
6332	明治39年	冬の部	枯菊を見せまゐらする佗しさよ	枯菊	植物
6333	明治39年	冬の部	菊枯れて鴻稀に来る日哉	枯菊	植物
6334	明治39年	冬の部	陸の神水の神旅衣かな	神の旅	人事
6335	明治39年	冬の部	人踏まぬ銀杏落葉や神の旅	神の旅	人事
6336	明治39年	冬の部	枯菊を後に神を送りけり	枯菊	植物
6337	明治39年	冬の部	縹渺の空晨なり神の旅	神の旅	人事
6338	明治39年	冬の部	神の旅磊塊の石を想ひけり	神の旅	人事
6339	明治39年	冬の部	枯菊に遊ぶ誰が子ぞ綿帽子	綿帽子	人事
6340	明治39年	冬の部	綿帽子人は長安古意の中	綿帽子	人事
6341	明治39年	冬の部	隠棲むでやまと言葉や綿帽子	綿帽子	人事
6342	明治39年	冬の部	菜園に吾妻見たりわた帽子	綿帽子	人事
6343	明治39年	冬の部	綿帽子なくて遊女が雪見かな	雪見	人事
6344	明治39年	冬の部	年忘妻やきのふの想人	年忘	人事
6345	明治39年	冬の部	年忘一人は聞きつ川千鳥	年忘	人事
6346	明治39年	冬の部	とかくして師を醉はしめぬ年忘	年忘	人事
6347	明治39年	冬の部	川涸の河原に晝の焚火哉	川涸	天文
6348	明治39年	冬の部	只たのめ莖漬の石もお取越	御取越	人事
6349	明治39年	冬の部	里人の何かに集ふ神無月	神無月	時候
6350	明治39年	冬の部	賣らで去る霹靂魚賣や日みちかき	短日	時候
6351	明治39年	冬の部	水涸れて狩の矢拾ふ川原かな	川涸	天文
6352	明治39年	冬の部	榾焚いて殺生の身を悔にけり	榾	人事
6353	明治39年	冬の部	笹鳴や藪の下草尚青き	笹鳴	動物
6354	明治39年	冬の部	貯の油の壷や冬構	冬構	人事
6355	明治39年	冬の部	短日の行へも知らず鳥一つ	短日	時候
6356	明治39年	冬の部	一人ある針子も休む寒さ哉	寒さ	時候
6357	明治39年	冬の部	硯見れば水乾きたる寒さ哉	寒さ	時候
6358	明治39年	冬の部	錆びたれど鎗一筋の寒さ哉	寒さ	時候
6359	明治39年	冬の部	黄金壞く旅恐ろしき時雨哉	時雨	天文
6360	明治39年	冬の部	人なきにしぐるゝ山や大悲閣	時雨	天文
6361	明治39年	冬の部	寒巌の勢を作す達磨の日	達磨忌	人事
6362	明治39年	冬の部	茶の花に嘯くとしもなかりけり	茶の花	植物
6363	明治39年	冬の部	鴨なくやもののふ松尾忠左ェ門	鴨	動物
6364	明治39年	冬の部	口切や古びたれども坐右の銘	口切	人事
6365	明治39年	冬の部	橘緑に題す冬至の句作かな	冬至	時候
6366	明治39年	冬の部	年忘人の許しゝ両三句	年忘	人事
6367	明治39年	冬の部	みかん呉れて子を寐させけり年忘	年忘	人事
6368	明治39年	冬の部	年忘俳諧三十六頭顱	年忘	人事
6369	明治39年	冬の部	各の來る遲速や年忘	年忘	人事
6370	明治39年	冬の部	三人に硯一ツや年忘	年忘	人事
6371	明治39年	冬の部	菜畑に妻出行くよ年忘	年忘	人事
6372	明治39年	冬の部	曾遊の山を描くや年忘	年忘	人事
6373	明治39年	冬の部	年忘すと押やりつ灯下の書	年忘	人事
6374	明治39年	冬の部	あるものに風呂吹切るや年忘	年忘	人事
6375	明治39年	冬の部	賣尽す茶器に悔あり年忘	年忘	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6376	明治39年	冬の部	年忘越の友より送りもの	年忘	人事
6377	明治39年	冬の部	誰が得たる古短冊や年忘	年忘	人事
6378	明治39年	冬の部	二三子が題の所望や年忘	年忘	人事
6379	明治39年	冬の部	北の窓ふさく因に干菜哉	北窓塞	人事
6380	明治39年	冬の部	稀に鳴る神や北窓ふさぎけり	北窓塞	人事
6381	明治39年	冬の部	佗を知る畑や北の窓ふさぐ	北窓塞	人事
6382	明治39年	冬の部	川涸を見下ろす岡や風の吹く	川涸	天文
6383	明治39年	冬の部	川涸に日落る旅を急ぎけり	川涸	天文
6384	明治39年	冬の部	隙間もる日の短長や冬坐敷	冬座敷	人事
6385	明治39年	冬の部	絵草紙のをかしき添へつ衣配	衣配	人事
6386	明治39年	冬の部	皮ごろも幾たび琵琶に涙哉	裘	人事
6387	明治39年	冬の部	松明に沼の廣さや梟啼く	梟	動物
6388	明治39年	冬の部	人に示す遊戯文字や厄落し	厄落	人事
6389	明治39年	冬の部	さゝ鳴を驚かしたる斧斤かな	笹鳴	動物
6390	明治39年	冬の部	夜竊かに生海鼠の桶を覗きけり	海鼠	動物
6391	明治39年	冬の部	めら／＼と燃ゆる火急や河豚汁	河豚汁	人事
6392	明治39年	冬の部	雲に巻舒あり生海鼠を相るといつれ	海鼠	動物
6393	明治39年	冬の部	雪車が来て散らばる町の子とも哉	雪舟	人事
6394	明治39年	冬の部	大寒の夜の響や水時計	大寒	時候
6395	明治39年	冬の部	杉風のあき人ぶりや年の市	年の市	人事
6396	明治39年	冬の部	皃見せの昔を夢の炬燵かな	炬燵	人事
6670	明治40年	冬の部	遊猟の幸なきことを吟じけり	狩	人事
6671	明治40年	冬の部	十年の山居遊猟の友が来る	狩	人事
6672	明治40年	冬の部	人の着る毛布もほしや年貢時	年貢	人事
6673	明治40年	冬の部	我旅の遠々しさよ古こよみ	古暦	人事
6674	明治40年	冬の部	古暦家に債もなかりけり	古暦	人事
6675	明治40年	冬の部	冬の日や樹を伐仆す五六本	冬の日	時候
6676	明治40年	冬の部	湯豆腐や少年輩は狩に行く	湯豆腐	人事
6677	明治40年	冬の部	巻中の艶な一句や年忘	年忘	人事
6678	明治40年	冬の部	主癖あり客に媚なし年忘	年忘	人事
6679	明治40年	冬の部	夜話の人こそ知らね垂氷かな	垂氷	天文
6680	明治40年	冬の部	笹鳴や貢の氷魚の皆活くる	笹鳴	動物
6681	明治40年	冬の部	茶畠に普請の屑も師走なる	師走	時候
6682	明治40年	冬の部	名に高き早川にして氷かな	氷	天文
6683	明治40年	冬の部	氷堅し人と別れて二三日	氷	天文
6684	明治40年	冬の部	氷る沼岸の高木の風に反る	凍る	天文
6685	明治40年	冬の部	誰がわざの神の扉に雪つぶて	雪遊び	人事
6686	明治40年	冬の部	乳母が居る家の灯を見て雪滑り	雪遊び	人事
6687	明治40年	冬の部	水涕や只水仙の爲に坐す	水仙	植物
6688	明治40年	冬の部	我馬の驚きやすき枯野哉	枯野	天文
6689	明治40年	冬の部	落窪に水田が見ゆる枯野哉	枯野	天文
6690	明治40年	冬の部	前書も三度更ゆ冬篭の句	冬籠	人事
6691	明治40年	冬の部	奥の田は水も落さず神の留守	神の旅	人事
6692	明治40年	冬の部	金銭を見るに満地の木葉哉	木葉	植物
6693	明治40年	冬の部	雪垣にちょとかくれけり歌舞の人	雪垣	人事
6694	明治40年	冬の部	十二橋家悉く雪垣す	雪垣	人事
6695	明治40年	冬の部	雪垣をして南山を見ずなりぬ	雪垣	人事
6696	明治40年	冬の部	雪垣に取残されし八ツ手哉	雪垣	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6697	明治40年	冬の部	雪垣や猪かつぎ込む雪明り	雪垣	人事
6698	明治40年	冬の部	聖経に倦で湯豆腐欲しけり	湯豆腐	人事
6699	明治40年	冬の部	湯豆腐の味知れと霰かな	湯豆腐	人事
6700	明治40年	冬の部	湯豆腐の一味自力の法語哉	湯豆腐	人事
6701	明治40年	冬の部	湯豆腐や日を短かゞる人の来て	湯豆腐	人事
6702	明治40年	冬の部	誤って師の坊に中つ雪つぶて	雪遊び	人事
6703	明治40年	冬の部	山に擬して反古つみけり冬篭	冬籠	人事
6704	明治40年	冬の部	時ならず馬で山越す霰かな	霰	天文
6705	明治40年	冬の部	碧梧桐が佐渡の咄や年忘	年忘	人事
6706	明治40年	冬の部	物あれバ垂氷す水の在所哉	垂氷	天文
6707	明治40年	冬の部	炭俵賣る午過や垂氷落つ	垂氷	天文
6708	明治40年	冬の部	浪に日の網に幸なし冬の海	冬の海	天文
6709	明治40年	冬の部	眠れりといふ山も見ゆ冬の海	冬の海	天文
6710	明治40年	冬の部	親汐のあたりの雲か冬の海	冬の海	天文
6711	明治40年	冬の部	麦蒔や人の後の冬の海	冬の海	天文
6712	明治40年	冬の部	磯の木に雷落ちて冬の海	冬の海	天文
6713	明治40年	冬の部	図書室にいつもの人と煖爐哉	暖爐	人事
6714	明治40年	冬の部	煖爐焚や雪の兎を語草	暖爐	人事
6715	明治40年	冬の部	卓上のみかんに遠き煖爐哉	暖爐	人事
6716	明治40年	冬の部	去る人を煖爐離れて送りけり	暖爐	人事
6717	明治40年	冬の部	二人寄れバ我顔ほてる煖爐哉	暖爐	人事
6718	明治40年	冬の部	山越の苛き年貢や枯芒	枯芒	植物
6723	明治40年	冬の部	親汐に逆ふ船や冬の月	冬の月	天文
6725	明治40年	冬の部	紙鳶の絵の腹案もあり師走哉	師走	時候
6726	明治40年	冬の部	水仙に似げなき手蹟拙さよ	水仙	植物
6727	明治40年	冬の部	水仙の南帖梅の北碑かな	雑	雑
6728	明治40年	冬の部	古駅此一木のちりもみぢ	散紅葉	植物
6729	明治40年	冬の部	豆腐買ふ頃一しきり散紅葉	散紅葉	植物
6730	明治40年	冬の部	斧入れて見る／＼中や散紅葉	散紅葉	植物
6731	明治40年	冬の部	鼡穴に蓄の栗ちりもみぢ	散紅葉	植物
6732	明治40年	冬の部	ちり紅葉買山の銭足らぬ也	散紅葉	植物
6733	明治40年	冬の部	大川のへりゆく水や神の留守	神の旅	人事
6734	明治40年	冬の部	鶴々の水鳥一つ神の留守	神の旅	人事
6735	明治40年	冬の部	小舟囲ふ川辺の里や神の留守	神の旅	人事
6736	明治40年	冬の部	残る菊の黄がちとなりぬ神の留守	神の旅	人事
6737	明治40年	冬の部	いさかひの地も末枯や神の留守	神の旅	人事
6985	明治41年	冬の部	濱便り日々届く小春かな	小春	時候
6986	明治41年	冬の部	鉄瓶に汲む茶の水や霜朝夕	霜	天文
6987	明治41年	冬の部	産屋明きの日の朝晴や笹鳴す	笹鳴	動物
6988	明治41年	冬の部	一語だも著せず頭巾清らなり	頭巾	人事
6989	明治41年	冬の部	さつ箭とぶと見るや頭巾の漢子出づ	頭巾	人事
6990	明治41年	冬の部	並木切るに公事定まりぬ冬構	冬構	人事
6991	明治41年	冬の部	酢徳利も空に賣れたり夕氷	氷	天文
6992	明治41年	冬の部	志士年忌堅氷の詩を作りけり	氷	天文
6993	明治41年	冬の部	寒月や皆そら事の小町塚	寒月	天文
6994	明治41年	冬の部	象潟に美妓のいつ来て冬の月	冬の月	天文
6995	明治41年	冬の部	截鉄の斬釘の筆氷りけり	凍る	天文
6996	明治41年	冬の部	厚氷朝課の素讀果しけり	氷	天文

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
6998	明治41年	冬の部	この鍬にこの鎌に初しぐれかな	時雨	天文
6999	明治41年	冬の部	柴門をくゞる乾鮭の孤峭かな	乾鮭	人事
7000	明治41年	冬の部	削去りて二三句存す除夜の鐘	除夜の鐘	人事
7001	明治41年	冬の部	等類の句に恥知るや年忘	年忘	人事
7002	明治41年	冬の部	足袋はくや年々つのる登山癖	足袋	人事
7003	明治41年	冬の部	冬藏の林檎紅ゐ煥発す	冬	時候
7004	明治41年	冬の部	民間に氏かゞやかす神樂かな	神樂	人事
7005	明治41年	冬の部	窮隈の地に火のほ立つ神樂かな	神樂	人事
7006	明治41年	冬の部	一山の一皴長し冬の川	冬川	天文
7007	明治41年	冬の部	冬木描く筆意冬川流れけり	冬川	天文
7008	明治41年	冬の部	冬川や北に片よる鳳凰堂	冬川	天文
7009	明治41年	冬の部	洲を行けば山の裏見ゆ冬の川	冬川	天文
7010	明治41年	冬の部	冬川や火見揩子も岸並木	冬川	天文
7011	明治41年	冬の部	方正の囲ろり孤獨の二人かな	圍爐裏	人事
7012	明治41年	冬の部	ゐろり端や鞘なき山刀の底光り	圍爐裏	人事
7013	明治41年	冬の部	大榾のゐろりに兀と酒の燗	圍爐裏	人事
7014	明治41年	冬の部	雪沓に燃えつけば去るゐろり哉	圍爐裏	人事
7015	明治41年	冬の部	根榾葉榾ゐろりにさがす雪の竿	圍爐裏	人事
7019	明治41年	冬の部	怙字恃字に灯前の眼を寒うしぬ	寒さ	時候
7021	明治41年	冬の部	此國の頭巾も脱がぬ頃なりし	頭巾	人事
7022	明治41年	冬の部	里の子と路に遊べり風の神	冬の風	天文
7023	明治41年	冬の部	風邪の神に後見らるゝ灯下哉	風邪	人事
7169	明治42年	冬の部	冬空や咎なくてやは墓木伐る	冬空	天文
7170	明治42年	冬の部	一字刪る誄辞の稿や冬空に	冬空	天文
7171	明治42年	冬の部	短日や学人菊を焚く遑	短日	時候
7172	明治42年	冬の部	活計に輕舸操縱日短き	短日	時候
7173	明治42年	冬の部	短日や書は浩澣にして售れず	短日	時候
7174	明治42年	冬の部	來年の暦話も日短に	短日	時候
7175	明治42年	冬の部	朱に墨に製図師に晷短しや	短日	時候
7176	明治42年	冬の部	話柄漁季に岐れ短き日脚哉	短日	時候
7177	明治42年	冬の部	待ちわぶる樺太便り日短き	短日	時候
7178	明治42年	冬の部	短日や文庫の森の夕鴉	短日	時候
7179	明治42年	冬の部	日短かの己れ急げば猟人も	短日	時候
7180	明治42年	冬の部	短日の虎を打ちしは武松也	短日	時候
7181	明治42年	冬の部	貧を侮る又の使や鴨の声	鴨	動物
7182	明治42年	冬の部	鴨啼くや家宝に図会と繁昌記	鴨	動物
7183	明治42年	冬の部	廩粟の耗りを憂や里冬木	冬木	植物
7184	明治42年	冬の部	石投げて冬木に中つる晷哉	冬木	植物
7185	明治42年	冬の部	巻末に至れバ冬木鳴やみぬ	冬木	植物
7186	明治42年	冬の部	法に飢ゑ道に渇きぬ寺冬木	冬木	植物
7187	明治42年	冬の部	筆意反り刀法屈む冬木哉	冬木	植物
7188	明治42年	冬の部	水鳥や狂言綺語に夢疲る	水鳥	動物
7189	明治42年	冬の部	水鳥や素懐を遂げて君と在り	水鳥	動物
7190	明治42年	冬の部	水鳥や沙弥の昔を見知る松	水鳥	動物
7191	明治42年	冬の部	水鳥や遺墨見し眼に筆法も	水鳥	動物
7192	明治42年	冬の部	浮寢鳥旅泊の綺夢に砭す	水鳥	動物
7194	明治42年	冬の部	筆硯又笹鳴の句を思ふ	笹鳴	動物
7196	明治42年	冬の部	因に榾の一句あり證シとす	榾	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳　　句	季語	分類
7289	明治43年	冬の部	新嘗の祭器見て久し冬篭	冬籠	人事
7290	明治43年	冬の部	課題再び香奩體や冬ごもり	冬籠	人事
7291	明治43年	冬の部	道しるべに誰が救はれむ冬ごもり	冬籠	人事
7292	明治43年	冬の部	瑣事の文に羽檄と題す冬篭	冬籠	人事
7293	明治43年	冬の部	妻賢に厨あかるし冬ごもり	冬籠	人事
7294	明治43年	冬の部	跡を絶ちし惡獣を繪に冬篭	冬籠	人事
7295	明治43年	冬の部	薪割てふと樹齢知る冬ごもり	冬籠	人事
7297	明治43年	冬の部	後援の事氣短に冬篭	冬籠	人事
7388	明治44年	冬の部	橙黄に吉事あり山眠る里	山眠る	天文
7389	明治44年	冬の部	里冬木他が舌鋒を挫くべし	冬木	植物
7390	明治44年	冬の部	筆陣の虚を狙ふ主冬日向	冬日	天文
7391	明治44年	冬の部	水鳥に夜学提灯はや過ぎし	水鳥	動物
7392	明治44年	冬の部	雪下ろし終へよ狸が煮えたるに	雪下し	人事
7393	明治44年	冬の部	山僧の跡雪沓の尻長に	雪沓	人事
7394	明治44年	冬の部	句意に人と相識るや水鳥も見て	水鳥	動物
7395	明治44年	冬の部	壽宴に皆詩あり遠近山眠る	山眠る	天文
7396	明治44年	冬の部	松雪折れ霽れての瀬鳴髙々に	雪折れ	植物
7397	明治44年	冬の部	杉山を負ひ戸々富めり冬の水	冬の水	天文
7398	明治44年	冬の部	旅人はや大槻の陰に冬田哉	冬田	天文
7399	明治44年	冬の部	冬木仆す三五人の鬨疾き雲に	冬木	植物
7400	明治44年	冬の部	水郷の魚買ひに大寒日和あり	大寒	時候
7401	明治44年	冬の部	雪沓の産土神詣はれがまし	雪沓	人事
7403	明治44年	冬の部	菅薦の句もありけむを霜の声	霜	天文
7525	明治45年	冬の部	掃除檢査も小家勝神の留守をすむ	神の旅	人事
7526	明治45年	冬の部	神を送る峯又峯の尽くるなき	神の旅	人事
7528	明治45年	冬の部	枯菊を見てありき思ふ遺句の事	枯菊	植物
7529	明治45年	冬の部	冬かまへ早し垣の内の落葉ふむ	冬構	人事
7530	明治45年	冬の部	村一番憎まれものゝ冬構	冬構	人事
7531	明治45年	冬の部	年忘一偈に襟を正うす	年忘	人事
7532	明治45年	冬の部	隠語解せぬ我醉早し年忘	年忘	人事
7533	明治45年	冬の部	大官と美人と寒霧を衝て雪車	雪舟	人事
7534	明治45年	冬の部	雪舟疾し北國穹廬夕づく日	雪舟	人事
7535	明治45年	冬の部	笹鳴や家祖祭の珍長き薯	笹鳴	動物
7536	明治45年	冬の部	屋髙煤掃き終へし不時雷鳴に	煤拂	人事
7537	明治45年	冬の部	煤箒立つる庭青空も見し	煤拂	人事